バランガイ保健師との協力広がる

－PIHS 保健ボランティア組織強化と能力向上－

（WE21 ジャパンみどりによる支援事業）

「スタッフ２名の離職と、保健ボランティア２名の海外就労で、現スタッフは２名、保健ボランティアは９名」ナプサさんからのメールには 2008 年 10 月以降のスタッフ移動が記されていました。昨年フィリピン全土を襲った米とガソリン高騰に象徴されるインフレは貧困家庭を直撃し、PIHS も人材流出問題に直面しました。

ハーブ薬を作るボランティアスタッフ

狂乱物価は大分落ち着きましたが、8-10 月に本事業地域にまで拡大した武力衝突で、キアンバ町プアゴでは、せっかく組織した保健ボランティアの活動がストップしてしまいました。郊外のシギルでも熟練保健ボランティア・ダンさんの心臓疾患、水害、武力衝突のトリプルパンチで、前号で報告のように、村での活動は緊急支援に限定されました。

こうした局面で PIHS が力を入れたのはバランガイの保健師との協力です。トゥヤンでは以前からバランガイ・ヘルス当局や保健師と協力して、回虫駆除などを実施してきました。この協力関係を強化・拡大するため、12 月 28 日開催の月末研修は、7地域の保健師との合同研修としました。

その後、マギンダナオ州における大量避難民対応のため、PIHS から合同研修の詳細は届いていませんが、PIHS のノウハウとバランガイが雇用する人材がうまく結びつけば、住民主体の地域医療改善の活動も広がることと期待されます。

紛争後再開されたシギルの活動。助産師ハムシアによる体重測定の後はシチューの給食でした。（12/21）

治療より予防を！－村での保健・衛生研修

（ラッシュジャパン助成事業）

ビラーンの村々の保健・衛生については、CMIP の看護師ジョジョとヒルダ、元奨学生たちが活躍しています。以下はジョジョの報告書からの抜粋です。

☆　☆　☆　☆　☆

11 月はサウスコタバト州のダタルサファン村にて 3 日間の研修を行いました。近隣から集まった 54 名の女性のなかには「産まれて初めてこのような健康セミナーを受講しました！」とおっしゃる方もいます。今まで、身だしなみを整えることについて夫が「他に男ができたんだろう」と憶測し、嫉妬するため、女性は身ぎれいにすることができませんでした。そのため感染症が流行ったり、肌の疥癬が治らなかったりします。この研修を通して、衛生についての正しい知識を得て、感染症、チフス、デング熱などは予防できることを学びました。またハーブ薬の作り方を学び、妊産婦にはビタミン剤を支給しました。

タブロ村での研修の様子。ノートに一生懸命書き取ります。

12 月は同じサウスコタバト州のタブロ村にて 3 日間の研修を行いました。こちらは 79 名の参加です。研修の主なテーマは「一般的な病気と予防方法」です。集まった女性たちは家族を病気から守ろうという熱意でいっぱいなのですが、難しいのは読み書きができない方がいることです。良かったのは若い夫たちも積極的に参加し、話し合う機会を持つことができたことです。彼らはハーブ薬の作り方や家族に病人が出た時どう手当てすれば良いかをもっと学びたがっています。研修の最後に多くの参加者が「緊急時や重病人が出ても、もうパニックにならなくてすみます」と語りました。この研修でどれだけ深く学べたかは難しいですが、数名が健康ボランティアとして今後活躍してくれることを期待しています。

☆　☆　☆　☆　☆

研修ではご寄附いただいたハンカチを配布しています。目標 10000 枚！みなさまのご協力をお願いいたします。